

眼で見る世界の森林 (2)



パースの発展を支えた森 (Jarrah forest)

前回紹介した「巨木の谷」から1号線 (South-western-highway) をパースに向かい北上すると、Manjimupの手前でjarrah (*Eucalyptus marginata*) の森林内を通過する。Shanon 国立公園の一角である (星印)。胸高直径は平均 50cm 前後、樹高は 40m に達し、通直・完満な幹が林立している (写真)。

西オーストラリア州の政府機関である“Department of Conservation and Land Management” (CALM) によれば、ヨーロッパ人が入植した 200 年前には 278 万 ha の jarrah forest および jarrah/marri forest が存在したが現在は 210 万 ha に減少したという。現在残された森林も多くは劣化し、原生林に近いものは 27 万 ha であり、そのうち 12 万 ha が国立公園や保護地域に指定されている。一方、15 万 ha は州有林に存在し、現在も伐採されている。州の“Forest Products Commission”の年次報告によれば、2009 から 2010 年に



けて天然林から生産された用材のうち、jarrah は 13 万 m^3 であり、karri が 5 万 m^3 、marri が 1 万 m^3 と続き、この 3 種で 98% を占めている。

Jarrah 林が分布する地域は冬雨型の地中海性気候で年降水量は 600 mm から 1,300 mm であり、土壌は肥沃だが、しばしば高濃度の塩類を含んでいる。Marri (*Corymbia calophylla*) および karri (*E. diversicolor*) と混生し、*Acacia* 属や cypress pine (ヒノキ科 *Callitris* 属) などを伴う。下層にはモクマオウ属 (sheoak) やジャクダン属 (sandalwood) が生育する。撮影した jarrah 林も人手が入り

管理されている。特に森林火災防止のため、下層の枯れ枝、枯れ草がある程度蓄積すると定期的に火入れを行っている。今回の説明には主に Forest Products Commission (2010): Annual Report 2009-2010. 110pp. Forest Products Commission を参考にした。(森林総合研究所 斉藤昌宏)

本欄に読者の皆様の投稿を歓迎します。詳細は本誌 82 号 43 頁を参照ください。